

教員名	浅田 徹 (ASADA Toru)
所 属	文教育学部言語文化学科日本語・日本文学講座
学 位	文学修士
職 名	助教授
URL / E-mail	asada.toru@ocha.ac.jp

◆研究キーワード

日本文学 / 和歌 / 国語学 / 連歌 / 歌学

◆主要業績

総数 (3) 件

- ・翻刻 蔵山集 (住吉大社奉納本)
- ・十世紀半ばの和歌と時代—好忠「毎月集」・『うつほ物語』の屏風歌—

◆研究内容

2005年に催された「古今集・新古今集の年」関連イベント群のまとめとして、二つの企画の成果の単行本化に携わった (うち一つは未刊)。引き続き京都・冷泉家の重要文化財である歌集類の調査・解題執筆を行った (刊行は翌年度)。江戸時代後期の和歌の研究を継続し、重要資料の翻刻を刊行すると同時に、連載のための研究を行った (刊行は翌年度)。万葉享受 (刊行は翌年度)・平安中期和歌の表現・鎌倉時代後期の家集の解題・江戸時代和歌資料の翻刻と、広い時代にわたる研究を行うことができた。また、室町後期の歌僧堯恵の著述に関する研究に対する科研費を申請した (2007年5月に採用が通知された)。その他、明治時代初期の和歌に関する資料収集を行った。

研究ではないが、郵政公社の「ふみの日」切手として百人一首切手が発行されたが、そのための監修を行った。

◆教育内容

例年通り学部の講義3種類、基礎演習1種類、演習1種類と、大学院の演習1種類を担当した。学部の演習では室町時代の歌人正徹の「正徹千首」輪読を指導した。大学院演習では「夫木和歌抄」の中から「夢」「眺望」の二つの部分を輪読した。卒業論文指導では、室町時代の和漢聯句と西行の和歌に関する論文の指導を行った。

その他、附属高校の連携授業で和歌と中世文学について講義した。

◆Research Pursuits

研究領域の特性からして、英語で書くことには意味がないと考える。

◆共同研究可能テーマ

- ・歌学と国語学史（表記・音韻・文法）との学際的研究
- ・明治時代の海外への和歌輸出について
- ・源氏物語と和歌との関わり

◆将来の研究計画・研究の展望

平安時代から明治初期まで広く和歌の歴史を取り扱いたいと考えている。次年度は特に、堯恵の著述に関する科研費を得たので、それを中心に、歌学と国語学史との学際的研究のために時間を掛けたい。

◆研究の実用化（実用化済のテーマ）

文学研究の「実用化」？ それはいったい何？

◆研究の実用化（今後実用化したいテーマ）

なぜそんなことを希望する？

◆受験生等へのメッセージ

年々、文学は芸術であるという当たり前のことを強く意識するようになってきた。芸術は自由であるべきものである。自由であるからこそ、表現には根拠と必然性が必要なのだ（必然性があれば何をやっても許される）。文学を研究する以上、そのことを軽視してはおかしい。表現の根拠を無視したテキスト上の戯れや、社会環境のことばかりを研究する行き方は、私は採らない。文学の自由さを理解しない類の実証研究も面白いとは思わない。以上。

◆Educational Pursuits

教育領域の特性上、英語で書くことには意味がないと考える。